

# 大島 匡史朗 Kyoshiro OSHIMA

個々に眠る可能性を信じ、その人にしか出せないものを引き出すアプローチ。言葉やイメージ・思考を使い、身体感覚に目を向け、時にはとことん話し合う。一緒に目指したいのは、「まだ誰も想像したことがないもの」。



Photo:liu\_ma



Photo:Yuval Moyai



Photo:Yuval Moyai

## プロフィール

SnC代表、振付家、ダンサー。スイス、パーゼルバレエ学校卒業後、同国、Ballet Junior de Genèveに所属。アレクサンダー・エクマン、ホフェッッシュ・シェクター等、世界的に有名な振付家の作品を踊り経験を積む。帰国後、企画団体SnCを設立。主催公演、他分野とのコラボレーション、ワークショップの企画等、様々な活動を行う。個人でも振付家をメインに活躍しており、2019年には福岡県・サザンクス筑後・九州芸文館等主催の「筑後ダンスプログラム」に作品提供、好評を得た。学校等へのアウトリーチを行う団体Dancing Peopleとしても活動中。

所属カンパニー SnC  
ホームページ <https://snc-contemporary-dance-project.tumblr.com>  
連絡先(担当) 大島匡史朗  
E-mail [snc.contemporarydanceproject@gmail.com](mailto:snc.contemporarydanceproject@gmail.com)  
アーティスト在驻地 福岡県福岡市  
アーティスト出身地 大分県日田市



Photo:Yuval Moyai

## 活動歴

(2011年) Ballet Junior de Genèveにて、「Inside yourself」振付  
(2016年) (公財) 日本バレエ協会主催「全国合同バレエの夕べ」にて、「Eat me, Eat Me」振付  
(2019年) 福岡県・サザンクス筑後・九州芸文館等主催「筑後ダンスプログラム2019」にて、「うつろう」、「骨まで食べれる(市民公募型)」振付  
(2020年) (公財) 筑後市文化振興公社主催「夏のちよこつフェスティバル」にて、「月が出た」(市民参加型) 振付  
(2021年) (公財) 福岡市文化芸術振興財団・福岡市主催「ダンスセレクションinアートカフェ」にて、「静寂は怒る」振付。クリエイティブ・ラボ「anno lab」とコラボレーションし、デジタルアート作品「窓がひらいている」制作。

## 受賞歴

(2005年) Youth America Grand Prixにてワシントンキーロフバレエアカデミーよりスカラシップ受賞  
(2006年) バレコン福岡男子ジュニアの部 4位受賞  
(2007年) NBAバレエコンクール コンテンポラリー部門 3-2位受賞  
(2011年) NBAバレエコンクールコンテンポラリー部門 振付作品が3-1位受賞  
(2016年) Youth America Grand Prix シニア部門 コンテンポラリー 振付作品がTOP12入り

## ワークショップ歴

■筑後ダンスプログラム2019 (2019年) 小学生以上の市民が対象。全6回のワークショップで、市民公募型作品「骨まで食べれる」を振付。主催：九州芸文館芸術文化交流拠点性発揮実行委員会  
■西日本短期大学メディア・プロモーション学科 (2020年) ダンス経験のある短期大学2年生が対象。5月にオンライン、12月に対面にて実施。  
■福岡市立八田小学校 (2020年~2022年) 各年の小学4年生が対象。毎年担任の先生へのヒアリングを行った上で内容決定。  
※2021年からは文化芸術による子供育成総合事業—芸術家の派遣事業として実施  
■Ballet and Beyond (2022年) 小学生以上の子供及び親子が対象。身体遊びを通して想像力や発想力を刺激。

## 可能なワークショップ等のスタイル

事前ヒアリングを実施し、ご希望やご要望、条件、現在抱えている課題などをお聞かせいただいた上で、ワークショップのゴールを定め、そこに到達するためのアプローチを検討してプログラムを構成するスタイルを取っています。また、地元と一緒にアウトリーチ活動を行っているアーティストにもアシスタントとして参加してもらおうと、私1人の考えだけに偏ることなく多角的なプログラムを構成できることも特徴です。

### ◎実施条件

- ▶アシスタントの有無：1名
- ▶出演者数：ダンサー3名(登録アーティスト+共演者2名)
- ▶参加適正人数：15名~30名程度
- ▶1日の実施可能回数・時間：3コマ ※1コマ45分
- ▶必要機材：可能なら、PC等を接続できるスピーカー、マイク2つ、ホワイトボード等

以下、過去に実施したプログラムの具体例をご紹介します。

## この事業で可能な市民参加作品のスタイル

ご希望や条件、参加者の特性などを考慮した上で作品を制作します。以下は一例です。

### ①『ミルク』

- 「積み重ねるもの」をテーマに、出演者との対話形式で進められていく作品。
- ▶上演時間：10分~50分
  - ▶出演者数：ダンサー 3名(登録アーティスト+共演者2名)
  - ▶市民参加の形態：市民参加公演のみ又は市民参加公演+レパートリー作品
  - ▶クリエイションワークショップの参加(出演)人

### アウトリーチ

#### ①自己への気付きの時間にしたい

参加者をグループ分けして食材を割り当て、全員で踊る「おでんダンス」を作る。個人・グループ・全員という3つの要素を行き来し、自分自身の考えを表現したり、他人とコミュニケーションを取ったりすることで、自分がどう考えているか、どう感じているかに目を向ける。

#### ②創作を行って発表をしたい

想像力を働かせながら身体を動かした後、少人数のグループを作り、それぞれに絵や書などが写っている写真を渡す。グループ毎に話し合いながらダンスを作り、最後に発表する。お題の写真には、言葉では簡単に説明できず、かつ想像力を刺激できるものを厳選し、型にはまらない踊りへと自然に導く。

#### ③日常の自己表現の手段から身体全体の表現へ

1日目、聴覚特別支援学校の生徒さんから手話を習い、その手話から振付を作り覚えてもらう。2日目、テーマ

に対して各自手話で回答し、その手話を元に自分でダンスを作る。

### 公募ワークショップ

#### ①身体の可能性に目を向けたい

身体を意識的に動かすことで、全身の感覚を刺激。身体に繊細な感覚があることに気付き、イメージと動きを連動させていくことで身体性を再発見し、人間本来の在り方を呼び起こす。

#### ②身体遊びを通して想像力を高めたい

誰もが知っているゲーム「しりとり」を、言葉だけでなく動きでも行う。プレイヤーが頭の中で言葉を決め、そこから想像できるイメージで動きを作ることを繰り返していき、全員に回ったら1つのダンスが出来上がる。

- 数・回数：1~10名・5回程度
- ▶同行スタッフ：演出助手1名
- ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名、照明仕込み1名
- ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：特に希望なし (2)リノリウム：可能であれば(なくても可) (3)必要機材、舞台セット：マイク2個

### ②『月が出た』

その土地の盆踊りをアレンジ。DJがミックスする音楽、それに合わせて変化する照明。踊って楽しい、見て楽しい、新しい形の盆踊り。

- ▶上演時間：50分
- ▶出演者数：ダンサー 3名(登録アーティスト+共演者2名)
- ▶同行スタッフ：DJ1名
- ▶市民参加の形態：市民参加公演
- ▶参加人数：20名以上
- ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名、照明仕込み1名、大道具数名
- ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：特に希望なし ※野可 (2)リノリウム：可能であれば(なくても可) (3)必要機材、舞台セット：檯、DJブース、可能であればミラーボール

## この事業で可能な公演作品

### ①『With it』

- 身体の可能性から様々な動きが生まれ、途切れることなく続く音楽と共に展開していく。ダンサーのトレーニングされた身体や動きをシンプルに楽しめる作品。
- ▶上演時間：20分
  - ▶出演者数：ダンサー 3名(登録アーティスト+共演者2名)
  - ▶同行スタッフ：制作1名
  - ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名
  - ▶上演環境：

- (1)会場の広さ・形状：特に希望なし
- (2)リノリウム：可能であれば(なくても可)
- (3)必要機材、舞台セット：備え付けの機材等に対応。現場を拝見した上で最終決定させていただけたらと思います。

### ②『ソロ作品(タイトル未定)』

- 1人の人間の身体とその動きに凝縮された無数の情報。言語とダンスの狭間を行き来することで、あるかのように錯覚している境目の無さに焦点を当てていく。

- ▶上演時間：50分
- ▶出演者数：1名
- ▶同行スタッフ：演出助手1名
- ▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名
- ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：特に希望なし (2)リノリウム：可能であれば(なくても可) (3)必要機材、舞台セット：備え付けの機材等に対応。現場を拝見した上で最終決定させていただけたらと思います。

## この事業で挑戦してみたいこと

私は、新しいものを見たい、とよく考えています。しかし、「新しさ」を日常の中で見つけることは少し難しい。なぜなら、新しいと感じるためには「知らない」ということが重要だからです。日常には知っているものばかりです。

この事業には「知らない」がたくさん潜んでいます。土地・時間・空間・人。「知らない」者同士が対話し、踊る。そんなこと、予想できない、なにが起こるか分からない、何が産まれるかわからない。紛れもなく「新しさ」への道であり、挑戦です。ワクワクします。

そうして辿り着いた「新しさ」の中には必ず、私達の「可能性」が見つかります。私は皆様とともに、私達の様々な可能性を探するという挑戦をしたいと考えています。